**【大学教育推進会議】e-Learning推進部会**

**e-Learning科目＿**初等教科教育法（音楽）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **No** | **テーマ** | **学修到達目標** | **内　容** | **課題** |
| 第1講 | 21世紀に求められる学力と学習環境 | （１）21世紀に求められる学力について説明できる。  （２）資質・能力を引き出す授業の条件を説明できる。 | （１）知識基盤社会で求められる力  （２）21世紀型学力を育成する授業への変革  （３）授業・教育課程のすがた  （４）評価のすがた  （５）「前向き授業」をつくる音楽科の取り組  　　　み | （１）知識習得モデルと知識創造モデルの違いを説明しなさい。  （２）知識習得モデルから知識創造モデルへの授業改善について、具体例をあげて説明しなさい。  （３）変容的評価について、具体例をあげて説明しなさい。 |
| 第2講 | インストラクショナルデザイン | （１）インストラクショナルデザインとは何か説明できる。  （２）ADDIEモデルについて事例をあげて説明できる。 | （１）インストラクショナルデザインとは  （２）教材開発とインストラクショナルデザイン  （３）ADDIE～インストラクショナルデザインの５つのプロセス（手順）～  （４）ADDIEフレームワークの活用　～音楽科の授業改善と資質・能力の伸長のために～ | （１）ADDIEのプロセスを検討し，音楽の教材を作成しなさい。 |
| 第３講 | 教育デザインの理論的研究 | （１）ブルームの教育⽬標分類について、⾏動⽬標による具体例を挙げて説明できる。  （２）ガニェの学習成果の５分類について、⾏動⽬標による具体例を挙げて説明できる。  （３）音楽科の題材における学習⽬標について、具体的に説明できる。 | （１）学習目標の明確化と授業デザイン  （２）学習目標の明確化と学習目標の分類  ・ブルーム　タキソノミー  ・ガニェ　学習成果  ・学習を支援する働きかけ～インストラクショナルデザインのアウトプットモデル～  （３）深い学びを目指す学習目標の構造化　～目標分析と目標分類～ | （１）ブルームの教育目標分類について、行動目標による例を取り上げて説明しなさい。  （２）ガニェの学習成果の5分類について、具体例を挙げて説明しなさい。  （３）具体的な題材において、目標分類表を設定しなさい。 |
| 第４講 | 教育方法の歴史 ～教えと学びのパラダイムの交錯～ | （１）教育方法の歴史をつかみ、現行学習指導要領の転換が図られていることを理解し，説明することができる。  （２）現在の学習指導要領において，重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について，音楽科の具体例を示しながら説明できる。 | （１）教育方法の歴史としての行動主義的学習観について  （２）教育方法の歴史としての認知主義的学習理論について  （３）教育方法の歴史としての構成主義的学習理論について  （４）教育方法の歴史としての社会構成主義的学習理論について  （５）教えと学びのパラダイムの交錯 | （１）教育方法の歴史としての，学習観の変遷を，学習者の具体的な姿を示し，述べなさい。  （２）現在の学習観において、重要視されている学習者の主体的に学ぶ態度（自律的な学び）について、具体例を示し、述べなさい。 |
| 第5講 | 子供の学習意欲を高める教育 | （１）学習意欲を高める指導法について説明できる。  （２）J.M.ケラーの ARCS（アークス）モデルについて、音楽科の学習活動の例を挙げて、具体的に説明できる。  (3)アンドラゴジー（Andragogy）をもとにして、学校式教育から⼤⼈の学び⽀援についてその違いを具体的に説明し、授業設計に生かすことができる。 | （１）動機づけを高める要因  （２）主体的に学ぶ学習意欲を高めるための方略　～IDの視点で授業デザインする、動機づけ設計法ARCS（アークス）モデルとは～  （３）IDの視点で学習意欲を⾼めるフレームワーク１～ARCS（アークス）モデルを音楽科授業の実際に生かす～アンドラゴジーとペダゴジー  （４）IDの視点で学習意欲を⾼めるフレームワーク２～成人学習学の原則「アンドラゴジー（Andragogy）」の考え方を生かす  （５）学ぶ意欲を保ち続けるために | （１）音楽科の学習の動機づけの具体的な⽅法をあげて、J.M.ケラーのARCＳ（アークス）モデルのどの分類にあたるか、説明しなさい。  （２）アンドラゴジーの特徴を、ペタゴジーとの比較をもとにして、学校式教育  から大人の学び支援について、その違いを具体的にカードで５つ挙げ、みんなの広場でグループごとに分類し、説明しなさい。【タブレット課題】 |
| 第６講 | 教育デザインの実践的研究 | （１）「主題による題材構成」「楽曲による題材構成」について説明できる。  （２）学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく題材構成ができる。 | １　インストラクショナルデザイン理論とモデルの活用  2　授業設計の技術  ３　音楽に関する汎用的な力を育てる題材構成  （1）目標の明確化による題材の構成  （2）題材構成の基本的な考え方  ４　教科の本質を追究する題材設計のために  （1）目標分析  （2）題材観 | (１)「教授フローチャート」を用いて、題材構成（授業デザイン）しなさい。  (２)学びの関連性、学びの積み重ね、学びのつながりを高めていく題材として、第1・2学年の学習で身に付けたことを関連付けて活用する第３・４学年の題材構成をつくり説明しなさい。 |
| 第７講 | 学校段階間の接続 | （１）保幼小の連携、小中の学習指導要領の構成について、説明できる。  （２）発達段階を踏まえた指導の充実（低・中・高学年）について、具体的な手だてを説明できる。 | （１）保幼、中学校の音楽科学習の接続  （２）発達段階を踏まえた指導の充実  ・発達段階を踏まえた音楽の感受を深める・表出する方法とその手だて | （１）音楽科の学習指導において、児童の発達段階を踏まえた指導の具体例を、教材（楽曲）例を用いて説明しなさい。  （２）育みたい資質・能力を焦点化した音楽科学習指導の、小中比較表を作成しなさい。 |
| 第８講 | 「教えないで学べる」という新たな学び | （１）「教えないで学べる」とはどのようなことか具体例を挙げて説明できる。  （２）「教えないで学べる」という新たな学びの設計ができる。  ：学習に必要な時間と指導の質  キャロルモデル(および多数の追跡研究)が提起する最も重要な問題は、学習に必要な適切な時間(TTL)はどれくらいかということです。  「学校学習のモデルは、生徒が必要とする学習時間の長さが異なることを前提としています。これらの違いが適切に考慮されるのであれば、教師には教室運営における相当な技能が要求される"(Carroll 1989: 29)。  ：キャロルのモデルは、必ずしも達成の平等ではなく、「機会」の平等を求めるという点でブルームのモデルとは異なります。「機会の平等を強調するということは、適切な学習機会を提供するだけでなく(必ずしもすべての学生にとって適切ではなく)、すべての学生の可能性を可能な限り上限に近づけることを意味します。」(キャロル1989:30)。キャロル氏によると、優れた計画は重要な要素ですが、優れたインストラクショナルデザインも重要な要素です。 | （１）J・Bキャロル（Carroll）の学校学習の時間モデル  （２）「教えないで学べる」学習環境  ・EdTech | （１）キャロル（J.B.Carroll）の学校学習の時間モデルについて説明しなさい。  （２）「教えないで学べる」学習環境について具体的に説明しなさい。  （３）「教えないで学べる」研修を実現するための手だてを考えなさい。 |
| 第９講 | 新たな学びとしての反転授業 | （１）反転授業について、具体例な説明ができる。  （２）音楽教育における反転授業の授業設計ができる。 | （１）協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果  （２）協働学習に影響を与える要因  （３）協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発 | （１）音楽教育における反転授業の学習展開について具体的に指導案を作成しなさい。  （２）音楽教育における反転授業とその効果と可能性について説明しなさい。 |
| 第10講 | 協働的な学びのICTデザイン | （１）協働的な学びにおけるICT活用のメリットを説明できる。  （２）協働学習の考え方を理解し、実際に授業デザインできる。 | （１）協働学習と互恵的教授法の考え方と学習効果  （２）協働学習に影響を与える要因  （３）協働学習のデザインの手法と協働学習を支援する教材開発 | （１）協働的な学びにおけるICT活用について、学習活動と方法を、具体例を挙げて説明しなさい。 |
| 第11講 | 主体的・対話的な深い学びの実現 | （１）「主体的・対話的で深い学び」について、具体例を挙げて説明できる。  （２）ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業をデザインできる。 | １.「主体的・対話的で深い学び」の実現  （１）アクティブ・ラーニングと「主体的・対話的で深い学び」  （２）「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善  （３）個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実  ２　小学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」  （１）「主体的な学び」  （２）「対話的な学び」  （３）「深い学び」  ３　「主体的・対話的で深い学び」と学習環境としてのICT   1. 知識基盤社会と資質・能力 2. 指導の個別化と学習の個性化 3. 「個別最適な学び」をどう捉えるか 4. 「主体的・対話的な深い学び」の授業デザインと評価 | １.「主体的・対話的な深い学び」を実現するための視点を説明しなさい。 |
| 第12講 | 学校における音楽科の役割  ～カリキュラム・マネジメントの実現～ | （２）音楽科におけるカリキュラム・マネジメントの充実について、説明できる。  （３）年間指導計画作成の考え方  社会に開かれた教育課程  音楽科における地域社会とのかかわり  カリキュラムマネジメントの充実  学校教育目標をふまえて | （１）音楽科のカリキュラム・マネジメント  立案  ・学校行事  音楽朝会、対面式、お別れ集会、音楽発表会  ・地域の音楽、国際交流  ・文化庁事業　学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業  ・教科横断的授業デザイン  他教科、外国語科、総合的な学習の時間  例）地域に居住する諸外国の人々との音楽文化体験・交流  　例）地域の伝統文化など学校の特色に応じた研究課題と音楽  ゲストティーチャー（地域人材、プロの演奏家、人材バンク等）との連携 | （１）教科目標と21世紀型学力を関連して説明しなさい。  （２）子供や地域の実態を生かした「カリキュラム・マネジメント」実現のための計画を立てなさい。 |
| 第13講 | カリキュラム・マネジメントと音楽科授業デザイン  ～教科経営～ | （１）教科目標と評価のかかわりの視点から、コンピテンシーを育む授業づくりの工夫・改善について説明できる。  （２）題材構成と単元構成の違いを説明できる。  （３）主題による題材構成において、適切な教材を選択できる。  授業づくりの根本は不変 | （１）資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント  ・教科目標と21世紀型学力  （２）授業づくりと題材構成  （３）年間指導計画  （４）PDCAサイクルと音楽科教育経営の自己評価  ・年間指導計画の作成  ・音楽科教科経営の自己評価の実際 | （１）学年の題材を計画し、教材選定意図を説明しなさい。 |
| 第14講 | コンピテンシーを育成するデジタルアーカイブの構築と活用 | （１）音楽科におけるデジタルアーカイブの利点を説明できる。  （２）音楽科デジタルアーカイブを構想できる。  教育DXの現状と音楽科の教材  活用  Classroom、Googleサイトの構築（音楽科研究室）  DX課題提出（midi、録音・録画、レポート）  GIGA小学校  見方・考え方  教材 | 1. コンピテンシーを育む音楽科デジタルアーカイブの構築   ・Google　Classroom  ・学びを可視化するスタディー・ログや学習データ（音源、MIDIデータ、動画、レポートなど）の整理と工夫  ・学び（思考・学習過程）の可視化、多様で大量の情報収集、整理、分析  （２）教育データ利活用ロードマップ  ・学習データの整理と工夫  ・学習指導要領のコード化  ・MEXCBT  （３）教材選択の視点（内容の取扱い）  ・表現  ・鑑賞  （４）デジタルアーカイブの活用  ・音楽科教育研究  ・ポータルサイトJAPAN　SEARCH  ・Moocs | （１）音楽科デジタルアーカイブのフレームワークを構成しなさい。 |
| 第15講 | 音楽はなぜ学校に必要か～未来を生きる世代に必要なこと | （１）音楽を学校教育で学ぶ意味を、子供にわかる言葉で説明できる。  （２）音楽の多様性と普遍性について、音楽の例を挙げて説明できる。  （３）子ども一人一人が自分の個性に気付き、創造の担い手となる経験ができる音楽科学習を構想できる。  21世紀型学力と音楽科  音楽を通して、自らの人生を心豊かに生き、他者と  協働しながら新たな価値を生み出すことへの期待 | （１）音楽の意味と価値  ・人間を知る、感じる  ・音楽の世界  ・音楽の多様性と普遍性  ・人間性の涵養  ・文化や歴史の理解  ・ID研究の未来  （２）人間の感情と音楽・芸術表現のエネルギー  感性を育む音楽科の役割  ・児童自身の幸せのため  ・社会を幸せにするため  ・Syllabus Music for Well-being for Music educator  （３）想像力とイノベーション（創造性）の発展  ・STEAM教育  ・マサチューセッツ工科大学の取り組み | （１）音楽を学校教育で学ぶ意味を、子供にわかる言葉で説明しなさい。  （２）創造力を育む音楽科学習指導のために取り組むべきことを説明しなさい。 |